



問 農業農村整備事業について

答 次期事業も有効な事業を選択し取組む

問

農業農村整備事業は、現在の事業枠で遅れが生じ、平成29年までずれ込むと聞いている。後に続く工事枠も多く控えていると思うが、このままのペースでは先が見えない。町長の考えを伺う。

町長

集落内クリーク整備は、国の補助事業である「農村振興総合整備事業」や「農業水利施設保全合理化事業」、「県の単独補助事業」である「農村環境整備事業」及び「町単独事業」を組み合わせて事業の推進を図っている。平成26年度は、約2億7000万円の工事を実施した。なお、農村振興総合整備事業は、国の予算の関係で完了年度が3年遅れ、平成29年度完了予定として事業を実施している。農村総合整備事業の予算拡充に向け、要望活動を実施しており、国の来年度予算が決定する年末に向け、県や各協議会などを通じて積極的に取組んでいきたい。

建設水道課長

農村振興総合整備事業は、現在5路線が未実施となつて

おり、延長した3年間で終了させることを目標に進めていく。

国の予算が減少したこと、進捗率が若干悪くなり、工期の延長という事態になっている。今後、予算確保に向けて要望活動を行い、期間内に完了するよう進めていきたい。

また、地元からの水路整備要望件数は、200件以上であると承知している。



雑草が生えている未整備の堀

問

町長が「おおき堀とくらしの記憶」で述べているとおり、今も堀に対する思いは変わりないと思うが、いま一度町長の気持ちを尋ねる。

町長

大木町を想うとき、堀、水、緑、空気は貴重な財産であり、これらをきちんとした形で次の世代に引き継いでいく責任があると思っている。

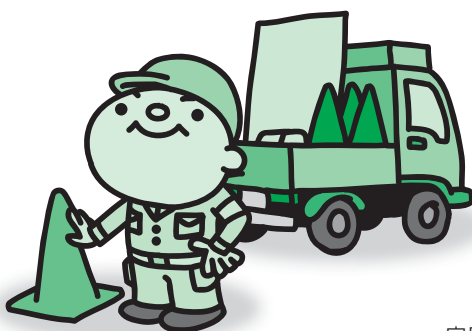
問

クリーク整備後の残地整理、官民境界の整理の進捗状況はどうか。また、クリーク整備で実施した件数、官民境界が整理された件数は。

建設水道課長

現在実施している水路整備事業では、「官民境界線を基本」として工事を実施し、できるだけ残地が生じないように努めている。このため、平成20年度以前に実施した水路整備事業において生じた残地が処理の対象となり、平成7年度から残地処理に着手し、本年度は、横溝町地区の残地処理に着手し、今後、大角西地区の残地処理を進めていく。

現在、残地処理の対象路線は、当初からの整備路線93路



官民境界の状況



線に対し、50路線が未処理となつている状況である。